

真の教育者は…



日本郵政グループ労働組合
中央執行委員長

山口 義和

何歳の頃かわからないが近所の「兄ちゃん」に連れられて近所の川までザリガニや蛙を捕りに行った記憶がある。あまり印象に残っていることはないが、リーダー的存在の「兄ちゃん」が幼い私の面倒をみるよう誰かに指示していたように思う。

私は、なぜかあまり人の言うことを聞く子ではなかったように思うが、幼心にこの兄ちゃんの言うことを聞かなければ、2度と遊んでももらえないという脅迫感があって必死に指示に従った記憶がある。

そのときに人間にとって必要な生きる力、自助・共助を身につけたのかもしれない。また、グループ管理(規律)や人間関係の技を身につけていたのかもしれない。

私は、幼稚園に行く年に「幼稚園には行かない」と明確な意思表示を行い、幼稚園の先生が毎日迎えに来てくれたにもかかわらずとうとう幼稚園には行かなかった。その理由は、毎日楽しく遊んだ友達と遊べなくなると思ったからだ。

しかし、ある日、大変なことに気がついた。誰からも遊ぼうと声がかからなくなったのだ。その理由は、友達全員が幼稚園に行ったからである。

私は、情報量の乏しさから大変な間違いを犯したことに気づいたが、今さら幼稚園に行くとも言えず、黙り通す(その理由は

黙して語らず。)忍耐の1年が始まった。全くバカな話である。しかし、「はっきり自分の意思を伝えたこと」と「一念岩をも通す」とがんばり続けたのはわれながら感心する。

豊かになったはずの日本

1970年代、モノが豊かになった頃から日本が変化し始めてきた。貧しいときには、近所の人たちと分かち合い助け合ってきたが、経済至上主義(市場万能主義)になるとすべてに競い合う時代になり、人間関係が希薄化してきた。また、同時に少子化が進み始め「教育ママ」が横行した。その後、偏差値が導入され数字によって子供を判断し、落ちこぼれを作り出したことによって共助共援の精神が失われていったと感じている。もっと大きな失敗は偏差値によって、ある意味子供の能力を正しく評価してしまっただけであり、「誤解と錯覚」がなくなって自分の可能性を見いだすことができず、無気力な人間を作ってしまった。考えることより覚えることを強いられた子供たちは、コピー人間となり個性を失った。

その結果、多く見られる例として、①自分の意思で動かない指示待ち人間――若者達、②リスクを冒さない責任回避人間

(新しいことには挑戦しない)――官僚、③部下に対する愛情がなく上司に対しては徹底したイエスマンの自己中心人間――会社幹部、④他人と同じでないと落ち着かない付和雷同人間――ブランド品で身を包んだ輩、⑤感動しない虚無人間――「べつに～」と言って物議を醸した若手女優、等の人間を作り出したのではないだろうか。

豊かになった日本にもたらされたもう1つの側面は、家に風呂ができたことで銭湯へ行かなくなり、子どもたちは自分の部屋を持ち、ゲーム機を買い与えられて部屋に閉じこもり、友だちと裸の付き合いや外で遊ぶことを忘れてしまった。

受験戦争から隣の子は敵と教え、敵対心を植えつけた。少子化に輪をかけて人と人のふれあいを拒むことによって、人間力(生きる力)が欠如し、人との付き合い方(男と女の付き合い方、他人との接し方、親や年長者との付き合い方)がわからなくなり、折り合いのつけられないわがままなすぐに「キレル」子どもとすべて親に頼り何1つ自分で決断できない子供が誕生する。

そして、過保護人間は「してもらう」こ

とを当然として、人のために何かを「してあげる(する)」という意識を持たない。

日本の現実

学校教育はどうだったのだろうか、PTAからのクレームも多くあったのであろうが、運動会を取りやめたり、父兄の参加を拒んだり、運動会で順位をつけることをやめた学校もあったと聞く。両親のいない家庭への配慮や子供に差をつけない気遣いであったのかもしれないが、運動会は家族のふれあいには欠かせない行事であると思うし、懸命に競い合うことは子どもたちの励みにもなるものだと思っている。誤った平等は大事な家族愛や仲間意識、競争心を忘れさせてしまっているのではないかと思う。

いろいろなことに興味を持ち、いろいろなことを経験して自分の知識を増やし、想像力を養うエネルギーを子どもたちから吸い取ってしまっているのではないだろうか。

世の中は決して平等ではない、それを受け入れ、たくましく育てる方が大切だと思う。

昨日まで同士であった者が、1つの意見対立を見れば、刺客を送り仲間の息の根を止める。～自分の思いどおりにならないと無責任に「もうやめた」と言って投げ出した政治家やオレに逆らったから「キレた」と言った若者を思い出す。

これが日本の現実とは何とも情けない。最高の教育者は、親でもなく、教師でもない。結局「近所の兄ちゃん」だったような気がする。

